

教員養成 県外2校と知見共有

# 福井大が連合大学院

## 全国初来春設置へ調印

福井大と奈良女子大、岐阜聖徳学園大の3校は来年4月、福井大を基幹校とする連合教職

開発研究科(連合教職大学院)を設置する。国立同士、県境を越えた設置は全国初。交流を深め、より実践的な指導力、応用力を備えた教員養成を目指す。6日、福井大文京キャンパスで調印式を行った。

連合教職大学院は、3校が協働運営することで知見や能力、カリキュラムを共有、教



連合教職大学院の設置に関する協定を結んだ(左から)奈良女子大・今岡学長、福井大・眞弓学長、岐阜聖徳学園大の藤井学長。6日、福井市の福井大文京キャンパス

員養成・研修の新たなモデルを追究していく。各校はそれぞれの幼小中高校や特別支援学校を拠点に活動し、相互参加や合同授業も行う。設置は全国3例目。8月に文部科学省から認可された。

福井大は2008年に設置した大学院教育学研究科教職開発専攻(教職大学院)を改組。院生が勤める学校に専任教官が向く福井大独自の「学校拠点方式」をさらに発展させネットワークを広げようと、2校へ呼び掛け協定が実現した。来年度から同科学校教育専攻(修士課程)の入学定員を30から27人に、連合教職大学院定員を37から40人とする。修士は2年。奈良女子大と岐阜聖徳学園大の2校はこれまで、教職大学院がなかった。調印式には福井大の眞弓光文学長をはじめ、奈良女子大の今岡春樹学長、岐阜聖徳学園大の藤井德行学長ら10人が出席、3学長が協定書に署名した。(中野克規)